

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	基礎看護学概論	1 (30)	16年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	はじめて看護を学ぶ学生として、看護が人間の健康や環境、生活に関わっていることを理解し、看護とは何かを追求し続けるための基本的な考え方を身につける。また、看護を支える主要な考え方、看護実践に関する法律や制度を理解し、看護が果たす役割を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の主要な理論を通して、人間・健康・環境・看護とは何かが理解できる 2. 看護の主要概念を踏まえ、看護の対象を身体的、心理的、社会的、霊的側面から理解できる 3. 看護の歴史の変遷を理解し、看護の役割と機能が理解できる 4. 看護実践に関する法律や制度から望ましい行動を考えることができる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	専門分野 看護学概論 医学書院 よくわかる看護職の倫理綱領			
評価方法	記述試験80%、レポート20%			
回	授業内容と成果			方法
1	看護師は何をする職業なのかを考えることができる			講義・演習
2	看護の歴史の変遷から、看護の本質とは何かを理解できる			講義・演習
3	看護の主要な理論家の看護学のメタパラダイムが理解できる			講義・演習
4	看護の役割と機能が理解できる			講義
5	看護の継続性と多職種チームの連携について理解できる			講義・演習・ポストテスト
6	人間の「こころ」と「からだ」について理解できる			講義・演習
7	生涯発達し続ける存在としての人間が理解できる 生活を営む人間としての「暮らし」が理解できる			講義 講義・演習
8	健康とは何か、障害とは何かを理解できる			講義・演習
9	国民のライスサイクルにおける健康状態と生活の現状が理解できる			講義・演習
10	職業としての看護の歴史から、看護職の資格法の概要が理解できる			講義・演習・ポストテスト
11	看護倫理と看護実践における倫理的課題への取り組みが理解できる			講義・演習
12	看護サービス提供の場と看護の概要が理解できる			講義
13	看護をめぐる制度と施策の概要が理解できる			講義・演習
14	看護サービス管理の概要が理解できる			講義・演習・ポストテスト
15	医療安全と医療の質保証のための看護が理解できる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	基礎看護技術	1 (30)	15年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	看護実践の重要な基盤となるコミュニケーションの重要性と方法について理解し、より良いコミュニケーションの技術を身につける。また、看護の対象者、看護者自身を守るための感染予防と医療安全について理解することで、あらゆる看護援助を安全に実践するための基礎を身につける。			
授業目標	1. 対象者との効果的なコミュニケーション技術を身につけることができる 2. 医療施設における感染予防についての知識及び技術を身につけることができる 3. 医療安全に対する基本的な考え方と対策が理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			
回	授業内容と成果			方法
1	1) コミュニケーションの意義と目的について述べるができる			講義
	2) コミュニケーションの構成要素と成立過程について説明できる			講義
2	関係構築のためのコミュニケーションの基本について説明できる			講義
3	傾聴の重要性と傾聴の方法について理解し、実施できる			演習
4	効果的なコミュニケーション技術の方法を理解し実施できる			演習
5	コミュニケーション障害がある人の特徴を踏まえた会話ができる			演習
6	コミュニケーション障害がある人の特徴を踏まえた対応ができる			演習
7	感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、感染防止の重要性について説明することができる			講義
8	標準予防策を正しく実施できる			演習
9	感染経路別予防策を適切に実施できる (必要な防護用具の選択・着脱)			演習
10	洗浄・消毒・滅菌の実際と感染性廃棄物の取扱い方法を知り、正しく実施できる			講義・演習
11	無菌操作が正しく実施できる			演習
12	1) 誤薬防止における安全確保の技術について述べるができる			講義・演習
	2) 患者誤認防止における安全確保の技術について述べるができる			講義・演習
	3) 針刺し事故の防止・事故後の対応について説明できる			講義・演習
13	転倒・転落・外傷防止のリスクアセスメントと防止策を踏まえ安全な療養環境の整備が実施できる			演習
14	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告・対応が理解できる			講義
15	薬剤・放射線暴露防止策における医療従事者の安全確保対策や技術について説明できる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	看護理論	1 (30)	10年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	看護実践の基盤となる看護理論の特徴を知ること、臨床現場での応用に結び付ける思考力を育む。事例を通じて、看護理論の活用方法を学ぶことで、看護過程展開の基盤とする。			
授業目標	1. 看護理論の活用の意義が理解できる 2. 看護理論の概要と実践への活用についてプレゼンテーションできる 3. 看護理論とアセスメントの枠組みの関連性が理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	看護学テキストNice 看護理論 南山堂 看護がみえるVol.4 看護過程の展開			
評価方法	記述試験40%、レポート30%、実技30%			
回	授業内容と成果	方法		
1	看護学と看護理論の関係が理解できる	講義		
2	看護理論の歴史と動向が理解できる	講義		
3	看護理論の種類と代表的な看護理論が理解できる	講義		
4	看護理論を実践に活かす意義が理解できる	講義・演習		
5	看護実践の基盤となる看護理論の特徴が理解できる	演習		
6	看護理論の活用方法が理解できる	演習		
7	看護理論の活用方法が理解できる	演習		
8	看護理論の活用方法が理解できる	演習		
9	看護理論の理解と実践への応用についてプレゼンテーションできる	演習		
10	看護理論の理解と実践への応用についてプレゼンテーションできる	演習		
11	看護理論の理解と実践への応用についてプレゼンテーションできる	演習		
12	看護理論の理解と実践への応用についてプレゼンテーションできる	演習		
13	ゴードンの機能的健康パターンの概要が理解できる	講義		
14	ゴードンの機能的健康パターンの概要が理解できる	講義		
15	ゴードンの機能的健康パターンの概要が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	日常生活援助技術 I	1 (45)	19年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	看護は生活している人間を対象として、その人の健康問題にアプローチするため、日常生活の援助は看護の重要な役割のひとつである。この科目では、日常生活を安楽に送るための環境調整技術、活動と休息援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術を学ぶ。看護ケアを行うにあたっては、対象者の状況をアセスメントし、対象者一人ひとりの状況にあった看護ケアを安全に行えるような方法を学ぶ。			
授業目標	1. 対象の療養環境を整える技術を身につけることができる 2. 対象の活動と休息を整える技術を身につけることができる 3. 対象の体位保持・苦痛の緩和・安楽確保の技術を身につけることができる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			
回	授業内容と成果			方法
1	療養生活の環境を整える意義について理解できる			講義
2	病室環境のアセスメントができる			講義・演習
3	快適な療養環境の整備ができる			演習
4	ベッドメイキングの方法が理解できる			講義・演習
5	ベッドメイキングができる			演習
6	臥床患者のリネン交換の方法が理解できる			講義・演習
7	臥床患者のリネン交換ができる			演習
8	事例に応じた療養環境の整備ができる			演習
9	事例に応じた療養環境の整備ができる			演習
10	姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理が理解できる			講義
11	様々な体位とその目的を理解し、体位変換の援助ができる			講義・演習
12	様々な体位とその目的を理解し、体位変換の援助ができる			講義・演習
13	体位保持の意義を理解し、安楽な体位保持の援助方法が理解できる			講義・演習
14	歩行の基礎知識と歩行時の援助方法が理解できる			講義・演習
15	車椅子・ストレッチャーについて理解し、安全な移乗・移送ができる			演習
16	スライディングシート等の補助具を使った援助方法ができる			演習
17	睡眠の基礎知識と睡眠障害のアセスメント方法が理解できる			講義
18	睡眠に障害を持つ患者への具体的な援助方法が理解できる			講義
19	罨法の種類と罨法が身体に及ぼす影響が理解できる			講義
20	対象に応じた温罨法・冷罨法ができる			講義・演習
21	安楽の促進・苦痛の緩和について理解できる			講義
22	対象に応じた安楽の促進・苦痛の緩和ができる。			演習
23	対象に応じた安楽の促進・苦痛の緩和ができる。			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	日常生活援助技術Ⅱ	1 (45)	19年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	看護は生活している人間を対象として、その人の健康問題にアプローチするため、日常生活の援助は看護の重要な役割のひとつである。日常生活の援助のうち、この科目では食事援助技術、排泄援助技術、清潔・衣生活援助技術を学ぶ。看護ケアを行うにあたっては、対象者の状況をアセスメントし、対象者一人ひとりの状況にあった看護ケアを安全に行えるような方法を学ぶ。			
授業目標	1. 看護の対象である人間にとって、より良い食事とは何かを学び、食事摂取に必要な援助方法を習得できる 2. 人間の排泄を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な排泄援助を習得できる 3. 皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関する基礎知識を理解し、対象が健康な生活を送るための清潔・衣生活援助方法を習得できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえるvol.2 臨床看護技術 メディックメディア			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			

回	授業内容と成果	方法
1	食事と栄養の意義を知り、対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント方法が理解できる	講義
2	事例を使った栄養状態・摂食能力のアセスメントができる	講義
3	食事介助の具体的な方法が理解できる	講義・演習
4	対象の状態に応じた食事介助ができる	演習
5	経口的な栄養摂取が行いにくい対象者への、摂食・嚥下訓練について理解できる	講義演習
6	排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法が理解できる	講義
7	床上排泄・ポータブルトイレ・おむつ交換の援助法が理解できる	講義・演習
8	対象の状態に応じた床上排泄・ポータブルトイレでの排泄援助が実施できる	演習
9	対象の状態に応じたおむつ交換の方法が理解できる	講義・演習
10	一次的導尿、持続的導尿について理解し、挿入方法および管理方法が理解できる	講義・演習
11	モデルを用い、導尿及び膀胱留置カテーテルの挿入および管理ができる	演習
12	便秘のアセスメントと便秘改善のケアを理解し、浣腸と摘便の援助方法が理解できる	講義
13	モデルを用い、浣腸及び摘便ができる	演習
14	皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する	講義
15	清潔に関するアセスメントができ、援助選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識が理解できる	講義
16	事例を使った清潔のアセスメントができ、対象に応じた清潔援助計画を立案できる	演習
17	対象の状態に応じた全身清拭と寝衣交換ができる	講義・演習
18	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換ができる	講義・演習
19	対象の状態に応じた入浴・シャワー浴の介助ができる	講義・演習
20	対象の状態に応じた洗髪ができる	講義・演習
21	対象の状態に応じた手浴・足浴ができる	講義・演習
22	対象の状態に応じた陰部の保清ができる	講義・演習
23	対象の状態に応じた整容ができる	講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	ヘルスアセスメント I	1 (30)	10年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	看護の対象である人間のヘルスアセスメント法について学ぶ。対象者に関する情報を意図的に収集し、正確に査定・判断することが、看護の質や方向性を決定することから、臨床判断能力や看護の基盤となる科目である。科目設定をヘルスアセスメント I・ヘルスアセスメント II とし、ゴードンの機能的健康パターンのアセスメント枠組みを使って系統的かつ段階的に健康査定の方法を学習する。ヘルスアセスメント I では、ヘルスアセスメント概論、バイタルサイン測定、身体計測、およびゴードンの健康パターンの3つのカテゴリーに沿ったフィジカルアセスメントについて学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントに必要なアセスメントの視点と技術を身につけることができる バイタルサインの観察とアセスメントができる ゴードンの機能的健康パターンに沿ったヘルスアセスメントができる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			
回	授業内容と成果			方法
1	ヘルスアセスメントの意義と目的を知り、ゴードンの機能的健康パターンの特徴が理解できる			講義
2	アセスメントに関する看護師の倫理的・法的責任が理解できる			講義
3	ヘルスアセスメントに必要な問診の技術を身につけることができる			講義・演習
4	フィジカルアセスメントに必要な視診・打診・触診・聴診の技術を身につけることができる			講義・演習
5	身体計測の目的と方法が理解できる			講義・演習
6	バイタルサインの観察とアセスメントができる (体温・呼吸)			講義・演習
7	バイタルサインの観察とアセスメントができる (脈拍・血圧)			講義・演習
8	バイタルサインの観察とアセスメントができる (血圧)			講義・演習
9	バイタルサインの観察とアセスメントができる (血圧)			講義・演習
10	健康知覚・健康管理パターンのアセスメントができる			講義
11	事例を使った健康知覚・健康管理パターンのアセスメントができる			演習
12	栄養・代謝パターンのアセスメントができる			講義
13	事例を通して栄養・代謝パターンのアセスメントができる			演習
14	排泄パターンのアセスメントができる			講義
15	事例を使った排泄パターンのアセスメントができる			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	ヘルスアセスメントⅡ	1 (30)	10年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	看護の対象である人間のヘルスアセスメント法について学ぶ。対象者に関する情報を意図的に収集し、正確に査定・判断することが、看護の質や方向性を決定することから、臨床判断能力や看護の基盤となる科目である。科目設定をヘルスアセスメントⅠ・ヘルスアセスメントⅡとし、ゴードンの機能的健康パターンのアセスメント枠組みを使って系統的かつ段階的に健康査定の方法を学習する。ヘルスアセスメントⅡでは、ゴードンの健康パターンの8つのカテゴリーに沿ったフィジカルアセスメントについて学ぶ。			
授業目標	1. ゴードンの機能的健康パターンに沿ったヘルスアセスメントができる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえるvol.4 看護過程の展開 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			
回	授業内容と成果			方法
1	呼吸器のフィジカルアセスメントが理解できる。			講義
2	循環器のフィジカルアセスメントが理解できる。			講義
3	呼吸器・循環器フィジカルイグザミネーションが実践できる。			演習
4	筋・骨格系・神経系のフィジカルアセスメントについて理解できる。			講義
5	筋・骨格系・神経系のフィジカルイグザミネーションが実践できる。			演習
6	「活動・運動パターン」について理解できる。			演習
7	「睡眠・休息パターン」のアセスメントについて理解できる。			演習
8	「認知・知覚パターン」のアセスメントについて理解できる。			講義
9	事例を通して呼吸・循環器のフィジカルアセスメントが実践できる。			講義
10	事例を通して筋・骨格・神経系のフィジカルアセスメントが実践できる。			講義
11	心理社会的側面のアセスメントについて理解できる。			講義
12	「役割・関係パターン」「自己知覚・自己概念パターン」のアセスメントについて理解できる。			講義
13	「セクシュアリティ・生殖パターン」「コーピング・ストレス耐性パターン」「価値・信念パターン」のアセスメントについて理解できる。			講義
14	事例を使ったヘルスアセスメントが実践できる。			演習
15	事例を使ったアセスメントが実践できる。			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	健康障害を持つ患者の看護	1 (30)	20年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	臨床での主要な症状を示す対象者への看護を学ぶ。シミュレーション演習では、高機能シミュレーターを使用し、観察力や専門知識・技術の重要性を理解する。さらに、臨床判断する過程について学ぶ。			
授業目標	1. 主要な症状を示す対象者への看護が理解できる 2. 対象者の示す症状を専門的知識を活用し、臨床判断することができる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 臨床看護総論 医学書院			
評価方法	記述試験60%、レポート10%、実技30%			
回	授業内容と成果			方法
1	呼吸機能障害に関連する代表的な症状のアセスメント方法が理解できる			講義
2	呼吸困難を訴える患者の情報を収集し、状態をアセスメントできる			シミュレーション演習
3	呼吸障害のある対象者への援助が理解できる			シミュレーション演習
4	循環障害に関連する代表的な症状のアセスメント方法が理解できる			講義
5	胸痛を訴える患者の情報を収集し、状態をアセスメントできる			シミュレーション演習
6	循環障害のある対象者への援助が理解できる			シミュレーション演習
7	栄養障害・代謝障害に関連する代表的な症状のアセスメント方法が理解できる			講義
8	腹痛を訴える患者の異変の徴候から、臨床判断できる			シミュレーション演習
9	栄養障害・代謝障害のある対象者への援助が理解できる			シミュレーション演習
10	排泄機能障害に関連する代表的な症状のアセスメント方法が理解できる			講義
11	便秘を訴える患者のアセスメントができ、便秘症状改善への援助ができる			シミュレーション演習
12	排泄障害のある対象者への援助が理解できる			シミュレーション演習
13	コーピングに関連する症状を示す対象者への看護が理解できる			講義
14	安全や生体防御に関連する症状を示す対象者への看護が理解できる			講義
15	安楽に関連する症状を示す対象者への看護が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	臨床看護技術 I	1 (15)	15年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	対象が安全に診療を受けられるための診察時・検査時・処置の介助技術について学ぶ。対象者の身体的・心理・社会的側面の情報を総合的に把握し、根拠に基づいた確実な看護技術の提供を行うための技術を習得する。さらに、医療過誤防止の観点から、安全・確実な技術を理解し、倫理的・法的側面を含めた看護師の役割について理解する。			
授業目標	1. 診察における看護の役割を理解し、その援助方法を習得する 2. 検体検査時における看護の役割を理解し、その援助方法を習得する			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるvol. 2 臨床看護技術 メディックメディア			
評価方法	記述試験90%、レポート10%			
回	授業内容と成果			方法
1	診察における看護の役割を知り、診察の目的と援助方法について理解できる			講義
2	検体検査における看護の役割を知り、検査の種類および目的が理解できる			講義
3	尿検査、便検査、喀痰検査について理解し、それぞれの検査時の看護が理解できる			講義・演習
4	血液検査の種類および目的を知り、採血時の看護が理解できる			講義
5	静脈血採血の手順と留意点が理解できる			講義・演習
6	モデル人形を使った静脈血採血ができる			演習
7	モデル人形を使った静脈血採血ができる			演習
8	事例に応じた診察・検査時の援助ができる			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	臨床看護技術Ⅱ	1 (30)	19年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	疾病の予防、診断、治療において重要な与薬及び生体検査についての基礎的知識および実際について学ぶ。看護師には、医師に指示された薬剤を正しく与薬する責務があり、対象者の身体的・心理・社会的側面の情報を総合的に把握し、根拠に基づく確かな技術を習得する必要がある。さらに、医療過誤防止の観点から、安全・確実な技術を理解し、倫理的・法的側面を含めた看護師の役割について理解する。			
授業目標	1. 与薬における看護師の役割を理解し、安全で確実な与薬のための知識および技術を習得する 2. 生体検査の種類および特徴を理解し、安全な検査時の援助法が理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるvol. 1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえるvol. 2 臨床看護技術 メディックメディア			
評価方法	記述試験90%、レポート10%			
回	授業内容と成果	方法		
1	1) 薬物の基本的性質が理解できる 2) 与薬における看護師の役割と法的役割が理解できる 3) 与薬における多職種との連携について理解できる	講義		
2	経口薬(パッカ錠・内服薬・舌下錠)・吸入の基礎知識と安全で確実な投与方法が理解できる	講義		
3	点眼・点鼻薬・経皮・外用薬・坐薬の基礎知識と安全で確実な投与方法が理解できる	講義・演習		
4	注射法の種類と目的および特徴を知り、注射用器材の違いが理解できる	講義		
5	安全で確実な注射のための実施上の留意点および準備方法が理解できる	講義・演習		
6	モデルを用い、安全で確実に皮下注射・筋肉内注射が実施できる	演習		
7	モデルを用い、安全で確実に皮下注射・筋肉内注射が実施できる	演習		
8	1) モデルを使い、安全で確実に静脈路確保および点滴静脈内注射が実施できる 2) 点滴静脈内注射の管理ができる	演習		
9	1) モデルを使い、安全で確実に静脈路確保および点滴静脈内注射が実施できる 2) 点滴静脈内注射の管理ができる	演習		
10	輸液ポンプ・シリンジポンプの目的と使用及び管理方法が理解できる	講義・演習		
11	輸血の管理および輸血時の看護が理解できる	講義		
12	心電図モニターの装着および管理方法が理解できる	講義・演習		
13	生体検査時の看護が理解できる(X線撮影、CT、MRI、内視鏡検査)	講義		
14	生体検査時の看護が理解できる(超音波検査、肺機能検査、核医学検査)	講義		
15	穿刺の種類と穿刺時の援助が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	看護過程	1 (30)	21年	病院において看護師として勤務
科目のねらい	看護を科学的根拠に基づいて実践できる方法論としての看護過程の展開方法を学ぶ。看護過程には、基盤となる看護理論や確かな看護技術や臨床判断能力が必要であり、看護師としての倫理的な判断と行動の重要性について学ぶ。また、看護実践の証となる看護記録は看護職の思考と行為を示すものであり、看護の継続性と一貫性の担保、評価および看護の質向上を目指すことの重要性を学ぶ。			
授業目標	1. 看護過程の展開方法が理解できる 2. 事例を使った看護過程の展開ができる 3. 看護記録の目的・法的意義および記載・管理方法について理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえるvol.4 看護過程の展開 看護診断ハンドブック 医学書院			
評価方法	記述試験60%、レポート40%			
回	授業内容と成果			方法
1	看護過程の意義と構成要素が理解できる			講義
2	看護過程展開に必要な基礎的理論が理解できる			講義・演習
3	ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメントの枠組みが理解できる			講義・演習
4	NANDA-I分類法と診断概念および主な看護診断概念が理解できる			講義
5	1) 看護記録の目的・法的意義が理解できる			講義
	2) 看護記録の構成と記載方法・管理方法が理解できる			講義
6	アセスメントの視点とアセスメント方法が理解できる			講義
7	事例のアセスメントができる			演習
8	全体像および看護問題明確化の考え方が理解できる			講義
9	事例の関連図および看護診断ができる			演習
10	看護計画の立案過程が理解できる			講義
11	事例の看護計画立案ができる			演習
12	実施及び評価の考え方が理解できる			講義
13	事例を使った実施および評価ができる			演習
14	事例を使った実施および評価ができる			演習
15	看護経過記録が記述できる			演習